

いしづち

愛媛労災病院広報紙第4巻第8号

(通巻第38号)

2006年10月5日発行

発行人: 病院長 篠崎文彦

【愛媛労災病院の理念】

当院は働く人々のために、
そして地域の人々のために
信頼される医療を目指します



ピンチをチャンスに変えて

リハビリテーション科技師長 上田 利一

平成17年4月に長崎労災病院より転任し早くも1年半が経過しました。二人の子どもは、大学や専門学校に進み妻と二人で四国に参りました。この瀬戸内海等の自然を満喫したいと思ひ、四国は初めての妻とバスツアーを楽しんでいます。転勤は何度しても緊張します。今回も、スタッフとうまくやっていけるか、様々な問題を解決できるかなどを考えるとストレスを感じることがあります。こんなときスポーツが気分転換に役立っている様に思ひます。体を動かすことが好きで野球、テニス、ゴルフ、卓球、スキー、釣りなどをやっています。これとって抜き出したものはありませんが大きな声を出して楽しんでいます。特に、野球は試合に出場すると、非常にいい緊張感があり興奮しますのでストレスの解消につながっています。

さて、平成18年4月に診療報酬改訂がありました。改訂については、平成18年1月より情報収集し各部門の主任と対策を立てていましたが、改訂間近の3月に人数の制限が加わりました。治療スタッフの数が、医師2名および理学療法士5名、作業療法士3名、言語聴覚士1名以上で合計10名以上でないと総合承認施設として認められないのです。ところが当院は療法士の合計9名で総合承認を申請するには1名不足していました。現状の9名では、同じリハビリテーション(以下リハ)行っても4千万円の減

収となります。急遽、病院に増員を要請し、栄養サポートチーム(NST)の関係で咀嚼・嚥下リハの専門が必要でしたので言語聴覚士を獲得しました。改訂が近づいた中で増員しなければならないというピンチを、リハ科職員が長年願っていた言語聴覚士を確保するというチャンスに変えられた事は非常に良いことでした。言語聴覚士の採用が4月となり申請は5月からとなりましたが申請後のリハ科の収入は計画どおり上昇してきています。今後の課題は、リハの質の向上です。リハ科の若い力とベテランの経験で質の向上を図るためスタッフ全員で学会や研修会等で積極的に発表することを目指しています。今回の増員は、リハ科のスタッフに与えた影響が非常に大きかったと思ひます。力を貸してくださいました皆様にお礼を申し上げます。今後も病院運営に協力していきたいと思ひます。

最後に、私は以前、胡蝶蘭を育てていたのですが、蘭は、いつも水や栄養を与えていると根を張らず、花を付けなくて葉だけになります。花を付ける時期には栄養を与えず水も減らし厳しい条件にすることで花を咲かせます。植物も人間も同じで、ぬるま湯に浸かった状態では強くなれず、厳しい条件にさらす事で生きようとする力が出てくるのだと思ひます。現在のこの病院経営の危機というピンチをみんなでチャンスに変えていきたいと思ひます。

第 10 回 TQM 大会

医事課 横山 幹

7 月 27 日大会議室において第 10 回 TQM 大会が行われました。今回の発表テーマは 4 題で、医師、看護師、コメディカル、事務等約 140 名の参加がありました。開会に先立ちパス委員会から 17 年度のクリニカルパスの実績 (新規パス・修正パス数及びパスの適応率) について報告があり、その後各テーマが発表されました。

「地域連携パス」は 18 年度診療報酬改定で新設された項目であり、紹介患者加算が廃止されたとはいえ地域医療また連携医療の充実が当院の重点目標にも位置付けられており、今後力を入れていかなくてはならないと感じました。「睡眠ポリグラフ検査の実際」の発表では睡眠障害がそれぞれの原因や症状から実に多岐にわたっているということ、また実際の検査の様子がスライドで示されました。私は医事課ということもあり計算するうえでも役立つ発表でした。「摂食療法加算に対する NST の取り組み」の発表では、摂食機能療法における当院の問題点を改めて見直しそれに対する NST の活動内容や成果の説明があり、非常に質の高い発表であったと思います。最後の「緊急報告」は当院の財政状況の発表で、1 カ月の収支状況や 1 年間の収支状況が実際の金額に基づいて説明されました。飾りのない現状の

発表であったため将来の予想を含め今後はさらに気を引き締めていかなくてはならないと思わせる内容でした。

私は、昨年 4 月に転勤してきて 3 回ほど当院の TQM 大会に参加しました。年 3 回の開催にもかかわらず毎回 4 ～ 5 題の発表があり、それぞれの部署で様々な取り組みが積極的にされているということに驚きました。ただ、個々の部門での積極的な取り組みが組織横断的な取り組みに発展するようなケースが少ないのが現状であると感じられます。病院は多くの部署から成り立っています。それぞれの部署がいくらがんばっていても他部署の業務への理解・尊重が足りない大きな効果はあげられません。TQM 大会は他部署のことを知る意味でも非常に有意義な会であると思います。病院発展のためにも今後も TQM 大会へのご協力、ご参加をよろしく申し上げます。



NATIVE の進歩

放射線科 森高正人

NATIVE は非造影の血管撮像用のシーケンスで現在四国では当院でしか稼働していません。

現行では、下肢動脈の閉塞疾患や動脈瘤の検査などに利用していただいておりますが (写真 1)、当院では更に利用範囲を広げて MR の世界ではまだ定義化されていない非造影での鎖骨下動脈の抽出に取り組んでいます。写真 2 は 9 月末に撮像できた非造影 NATIVE 使用の鎖骨下から上腕の動脈ですが全国に先駆けて抽出に成功しました。まだ数例テストを行い微調整した上で臨床上にリリースしたいと思っています。

また同じく 9 月に今までは MRDSA (造影サブトラクションアンギオグラフィー) でしか抽出できなかった全身 NRA への手がかりを非造影で同じく全国に先駆けてつかむことができました (写真 3)。近々愛媛労災病院提供のシーメンスのチャンピオン画像と言うことで全国に配布されることとなりますが、WIP の NATIVE でトップレベルの画像が得られたのも日頃様々な症例の検査を御提供いただき、また思うような結果が出なくても辛抱強く待っていただいた先生方のおかげと、この席をお借りしてお礼を申し上げます。現在これらの最終調整を行うと共に

に手指の非造影 MRA 定義化を試みています。また近々コロナリー用の WIP ソフトが導入されますので、その節は御協力お願いいたします。

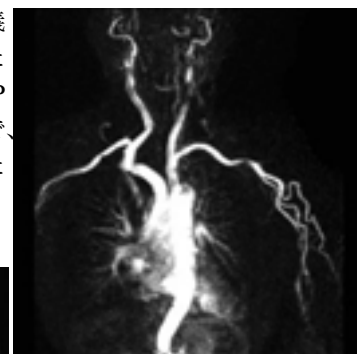


写真 2

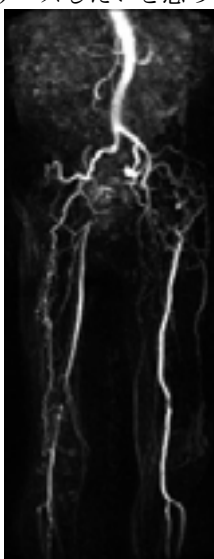


写真 1

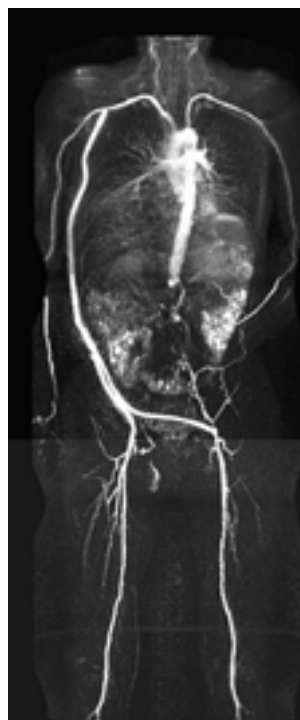


写真 3

平成 18 年度地域医療連携勉強会

地域医療連携室 橋本 直子

9 月 29 日金曜日、リーガロイヤルホテルにおいて地域医療連携勉強会が開催され、今回の勉強会は初の院外開催となりました。近隣の 29 医療機関等から、医師や看護師等 43 名の方が出席されました。当日、午後 6 時半から始まった勉強会では、冒頭に院内の情報提供をさせて頂きました。まず、連携室長である友澤副院長より、当院の最新鋭 CT、MRI 機種で撮影した画像をスクリーンに示しながら、機種を紹介を行いました。今年 1 月に放射線機種の更新が行われてから、院外の方々に直接紹介する場がなかったので良い機会となりました。続いて、リハビリテーション科堀内技師、寺松技師より当院の周術期呼吸リハビリテーションの取り組み、事例発表がありました。

今回の勉強会では、香川大学医学部泌尿器科教授・寛 善行先生をお招きして、「前立腺がんの治療法選択 - 根治と QOL のバランス -」という演題で特別講演をしていただきました。実際の写真や映像を交えた講演に、参加された方々は熱心に耳を傾けておられました。

特別講演会後、会場を移して懇親会も開催されました。院内出席者と院外からの方々とが交流しつつ、互いの情報を交換することができたのではないかと思います。当院が今

後力を入れていくことのひとつとして、後方連携の充実(逆紹介の推進)がありますが、そのためには、相手の医療機関のことを知る、また、こちらのことを知ってもらうことが必要不可欠なのではないかと存じます。今回、このような会を設けることができ、大変良い機会になったと感じます。

今回、ご出席、ご協力いただいた皆様には、大変感謝しております。今後も、地域医療連携室としてより向上していけるよう、努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



北 4 階に引き続き、PSS

- パーソナル・スペースシステム - 導入しました。
北 6 階師長補佐 山根千春

8 月 21 日から 3 日間で、1612 号が生まれ変わりました。ピンクを基調にした女性部屋は、カーテンやブラインド、壁紙も新調。DVD プレーヤーや液晶テレビ、電気スタンドや保冷庫まで付いたシステムロッカー。そして、床はフローリングのとても落ち着いたお部屋です。1618 号は、クリーム色ベースの男性部屋です。お勧めポイントはベッドです。木目調の外観はもちろんです。パラマウント社の低床ベッドはコントローラのボタンで患者様の移動や、看護師の援助に合わせた高さになります。ズレ防止の「カインドボタン」を押せば、まず足元が上がってお尻をキープしてから背中が上がり好みの角度に座る事ができます(テレビ CM のとおりです)。ボタン操作は声で教えてくれます。新しいマットレスと絶妙な角度のベッド。「寝てみたい…」と思うのは私だけではないと思います。患者様にも看護師にも優しいベッドです。

料金は「TV 等環境機器使用料」として 1 日につき、1,575 円(税込み)頂いています。テレビカード不要で観ることができますので、カード代と同じ位の予算です(冷蔵庫をレンタルする方にもお得です)。北 6 階は外科や形成外科病棟なのでお子様や、若い患者様が入室されるかなという当初の予想は外れ、様々な患者様の入室希望を頂いています。それはちょっぴりリッチな外観だけではなく、隣のベッドとの間に壁があるのでプライバシーが守られるお部屋だからでしょうか。今後は、DVD プレーヤーがあるのだから、

それを利用したサービスが提供できたらいいなと思います。例えばホテル案内みたいに入院時の説明を流したり、手術や検査の説明が見られたり…。入室希望は外来か入院係にお申し出ください。入院時はどうぞ PSS をご利用下さい。



医療安全相互チェック

医療安全管理者 高橋 美保

独立行政法人労働者健康福祉機構は、平成17年度から「医療安全チェックシート」を導入し労災病院における医療安全の質の標準化と更なる向上を目指している。257項目からなるこのチェックシートは、各施設が医療安全の自己点検を行い、明確になった課題や問題点の改善を図ることにより、安全で安心な医療を提供できることをねらいとしている。

今年度は、さらに一步前進し、労災病院間における医療安全相互チェックが行われた。

当院については、7月11日に香川労災病院によるチェックが行われ、8月25日には当院が香川労災病院をチェックした。今年度の両院の共通テーマは、「医薬品」であり、薬物取り扱いのマニュアルの存在と活用状況、注射業務におけるマニュアルの遵守状況、医薬品の管理などを中心にチェックシートにしたがって実施した。相互チェックは初の試みであり、また当院がチェックを受ける日程が実際に決定したことなどから、準備不足の感は否めず緊張して当日を迎えた。香川労災病院からは医療安全統括責任者、医療安全管理者をはじめとする職員5名が来院し、病棟2箇所、薬剤部、救急室を2時間半ほどかけて視察した。その

後、両院のスタッフでディスカッションを行い、今回のテーマ以外のことについても忌憚のない意見を交わし、情報交換を行った。そして最後に医療安全対策委員会のメンバーが参集し、香川労災病院からの講評を受けた。今回の相互チェックは、できていないことをチェックするという雰囲気ではなく、チェック対象病院の取り組みで優れていることをチェック実施病院が参考にしたり、チェック実施病院が自病院での取り組みを提言するという前向きなものであった。現在当院は、香川労災病院からの提言を受け課題を明らかにしそれに取り組んでいる段階である。機構全体で実施しているこの相互チェックをチャンスと捉え、更なる医療安全の向上に向け取り組んでいきたい。



今年2度目の「ふれあい看護体験」

北5階看護師長 青野 敏子

今年は5月の看護週間の後、7月25日に2度目の「ふれあい看護体験」を実施しました。毎年、看護週間に合わせて、「ふれあい看護体験」を開催していますが、春の中間試験期間と重なり体験したい方々も参加できない状況でした。期待に応えて7月の夏休みに再度計画し、新居浜西高と新居浜東高から8名の参加がありました。最終の進路決定の時期で彼女たちにとってタイムリーな開催だったようです。

計画段階で将来の看護師を対象として、新人看護師の白衣姿や細かい実施内容を盛り込み興味を持てるパンフレットを作成して、近隣の高校へ発送しました。プログラムでは看護師の仕事や医療現場の実際を理解してもらうことを目的として、いろいろな場面を見学・体験できるように計画しました。手術室や集中治療室など特殊な所も見学して大変好評でした。

「ふれあい看護体験」では看護の実際、医師やコメディカルとの連携、手術室や集中治療室の実際を見学して感動し、医療現場の緊張感を実感していました。見学場所では皆さん熱心に質問をされ、予定時間を超過してしまうほどで、看護や医療に対する意欲と熱意を感じました。

懇親会では、愛媛県看護協会より借りた「だから看護の

シゴト」というビデオの鑑賞を実施し、当院の体験だけでなく、いろいろな内容を紹介できました。意見交換会では皆が看護師や医療関係の進学希望をしていることがわかり、労災病院の看護学校や奨学生の制度、当院の教育体制など必要とされる情報を提供することができました。

私自身、高校生頃の自分を思い出し、希望した職業に就けたことを感謝しています。看護師という職業に誇りと責任を感じると共に、彼女たちが現場に出るまでに、もっと看護の質を向上させ医療事故の少ない、働きやすい職場を作っておく必要があります。私たちに課せられた課題を病院職員が一丸となって解決していきたいと思います。

来たれ！後輩たち、3年後の、4年後の貴女を待っています。



北 6 病棟

看護師 工藤 愛

我が北 6 病棟は、元来の外科、形成外科に今年度より血管外科も加わり、ますます活気に満ちているような…そして繁雑、多忙さも以前にも増して劣らず…。この現状を各科医師はじめ、ちょっぴりお茶目で母のような田中師長、オモロかつこい山根補佐を筆頭に、総勢 18 名の個性がとめどなく溢れ出て止まらない看護師達が笑顔で支えています (写真参照)。

急性期、回復期、ターミナル期と、多種多様な闘病の過程をここでは目の当たりにします。先述しました「個性の泉」集団も、この時ばかりは心身ともに一丸となり、患者様個々の置かれている立場に共感しながら、日夜、献身的な看護に身を投じています。

ベテランから若手まで、時には悩み戸惑いつつも、看護に自信とやりがいを感じて日々成長を遂げている、これからも前進あるのみの北 6 病棟です。



注：秋山外科部長先生に、「綺麗には撮れないけど、押すだけならできるよ」と自らすすんで撮影して頂いたみんなの綺麗な写真です。先生、ありがとうございます。(Y)

私の仕事

看護師 研山 幸子

こんにちは、看護師の研山です。私は、手術室、内科病棟を経験後、昨年の 10 月に勤務交代し、現在、脳神経外科と整形外科の混合病棟で勤務しています。名字を「とぎやま」と読みますが、高齢の患者様に自己紹介をすると、必ずといってよほど「さきやま」「すぎやま」など違う名前と呼ばれてしまいます。「とぎやま」とはなかなか呼んでもらえませんが、そんなやり取りも楽しみつつ日々頑張っています。当病棟では、65 歳以上の高齢者が 6 割を占め、その中の 2 割が 80 歳以上の患者様です。疾患により、寝たきりで経管栄養が必要な患者様からリハビリ期の患者様まで、いろいろな方がいらっしゃいます。ベッド上でのおむつ交換や体位変換、車椅子への移乗など必然的に患者様を抱えることも多く、日々腰をさすりながら、看護にあたっています。体力的に大変な面もありますが、患者様やその家族とかかわり、個々の「喜怒哀楽」に触れながら、私自身様々なことを勉強させてもらっています。

先日、日本看護学会一老年看護一に行ってきました。どの病院、施設においても高齢化は同じであり、認知症に関わる様々な問題、安全管理、退院調整その他、日々の看護で問題となっていることが、様々な角度から研究されていました。看護部でも毎年、各病棟が看護研究を行っています。今年の当病棟の取り組みは「口腔ケア」です。意識障害や麻痺の為、経口摂取が出来ない患者様は、唾液分泌の低下により口臭や舌苔などがみられることがあります。従来から口腔ケアを行っていますが、より効果的なケアが出来るよう患者様協力のもと取り組んでいます。看護研究は私たち看護師自身を対象にしたものから、患者様に協力を頂くもの、用具の開発など様々なものがあります。私たち看護師は、日々の看護業務に加え、こうした研究にも取り組むことで、患者様により適した看護ができるよう努力しています。

3 冠

歯科部長 千葉 晃義

9 月 30 日中四国サッカー大会が行われ愛媛がまたしても優勝しました。山陰労災に 7 対 0、中国労災に 4 対 0 と圧勝です。サッカーでこの点差はかなり実力の差があり、他チームから強すぎるからもっと年寄り出してくれとの訴えがあるほどでした。OB の大藤先生、幡中先生、佐竹先生、伊藤先生、新井先生も参加してオシムジャパンの走りながら考えるサッカーが少しできたと思います。優勝カップで飲むビールは格別でした！

そして、紹介が遅れましたが 6 月に野球の中四国大会が開催され、強敵山陰労災の 9 連覇を阻止して悲願の優勝をしました。決勝戦、滝田君が手投げではありませんが強気のピッチングで強打山陰打線を 2 点に抑え、5 回わたくし千葉のタイムリー 2 ベースで追いつき延長戦、1 死満塁のサヨナラのチャンスに僕の打順の前で、滝田君がヒットを打ってしまい接戦を制し見事優勝しました。

これで 2 冠です。あと 1 冠は仕事で取りたいですね！みなさん。

※野球の写真は押し競饅頭ではありません、局長の胸上げシーンです。伊藤君が撮影しました。



☆ 総務課からのお知らせ

— 人事異動 —

8月31日付退職

北7病棟看護師 加藤 香
北7病棟看護師 伊藤 由香

9月30日付退職

外来看護師(嘱託) 松村 さやか

新しいスタッフの紹介

8月21日付採用

北7病棟看護師 濱田 博美

8月より愛媛労災病院で業務させていただきましたことになりました。忙しい毎日ですが、早く環境になれ頑張っていきたいと思っていますので、よろしく願います。



10月1日付採用

外来看護師(嘱託) 内山 洋子

再び労災病院にお世話になります。患者様には笑顔で接し頑張っていきたいと思っていますので、よろしく御願います。



地域医療連携室より

去る9月29日、平成18年 地域医療連携勉強会がリーガロイヤルホテルにて開催されました。当日は近隣の医療機関等から先生、看護師、MSWの方等、多数ご出席していただきました。また、院内からは院長をはじめ、医師、看護師、薬剤師等多数の出席がありました。詳細につきましては、第3面をご覧ください。今回のように院外で行う勉強会は、病診連携室が15年8月に発足してから初めての試みであり、手探りの状態で準備等をしてまいりました。開催当日を迎えるまでは大変な不安でしたが、無事終了することができました。ご協力頂きました皆様、本当にありがとうございました。皆様の協力がなければ、このような機会を持つことは難しかったと思います。今回の勉強会を機に、これからの病病・病診連携がますます活性化するきっかけに、また地域での医療連携をもっと深めていければと思っています。(地域医療連携室 橋本)

今後の主な病院行事

愛媛労災病院開院50周年記念講演会

講師

日本病院団体協議会議長

全国公私病院連盟会長

竹内 正也 先生

中央医療協議会委員

赤穂市民病院長

邊見 公雄 先生

暑い夏と蝉の声

22年間住み着いた山口県の宇部市から4月に転居しここ愛媛新居浜の地で過ごすことになった。同じ瀬戸内海に面し暑さ寒さも変わらないと思っていたが夏は宇部よりはるかに暑い感じであった。8月後半気温が37度Cを越えた日もあった。そして宇部では35度Cを超えることがあるだろうかと思ったりもした。

どんなに暑い日でもセミたちは元気である。7、8年いや長いものでは20年以上も地中で生活しやっと地上に出てきて一週間とか10日位でその一生を終るセミたちにとっては夏は最後の楽園かもしれない。官舎にちよつとした庭があり大きな木々が茂っているせいもあり朝日が少し上がる前からクマゼミがやかましくいらいの声を聞きはじめる。あつちの木こつちの木と所かまわず鳴く声はますます暑さを助長するのである。小学生のころ近くに裁判所がありその中庭に大きな梅檀の木があった。ここにおもしいくらいくマゼミが群がりワシワシと鳴いていたので自分たちは蝉の名前がワシワシと思っていた。それが10時頃になるとびたつと鳴き声がおさまり昼寝をしている様子である。一本の枝に何匹も連なっている。涼しいうちに宿題帳をすませて蝉取りに行くよう言われていたがそんなこととは構いなし、われ先にと手作りの網をもって出かけて行った。それでも自分達より先に来ている者があり網が届く程の高さの枝には蝉は一匹もない。またあしたと言う事になる。夕方4時頃になるとアブラゼミがジージーとなき始める。時に夕立などくると少し暗くなり、やはりアブラゼミが鳴き始める。なかには夜遅くなつて電信柱の薄明かりの近くで鳴きだすものもある。すると周りにいるアブラゼミがいつせいにジージーと合唱をはじめ。バカな蝉だなあ、蝉は昼夜が良くわからないのかと思ったりもした。

もう20年以上も前になろうか、学会の帰り、真夏に秋田県と青森県の県境山中を車で通った際、静寂につつまれ谷を越えた森林のなかでミンミンゼミがただ一匹はるか遠くでミンミンと張り裂けんばかりの声を鳴いていた。まわりのススキや木々の葉が僅かにゆれ涼風が頬を通り過ぎて行く……。こんな光景に出くわしふとあの芭蕉の句、「静けさや岩にしみる蝉の声」を思い出した。これはどこで詠んだ句か知りませんが恐らく同じような状況のなかでの旅ではなかったのではなからうかと想像した。

(篠崎文彦)

編集後記

もう10月となり、秋も深まってきました。2006年もあと数カ月。4月から社会人となって、1日があつという間に終わってしまう気がします。さて、今月号ではこの編集後記を含め3カ所(!)も記事を担当させていただきました。正直、締め切りに間に合うだろうか…と心配でしたが、何とか完成させることができました。今月号第3面、そして上記の「地域医療連携室より」にもありますが、9月29日に地域医療連携勉強会が行われました。今回の

イベントを通して、顔の見える交流・情報交換の大切さを実感しました。相手の医療機関のことを知る、また、こちらのことを知ってもらうことが今後の連携には必要不可欠であり、より密な情報のやり取りができると思います。また、今回は当院の最新鋭の放射線機器について、直接アピールできる場をもつことができました。院内の有益な情報を提供していくことが今後重要であり、媒体の一つである広報誌「いしづち」がその一翼を担っていければと思います。(N.H.)

広報紙編集メンバー：病院長(篠崎文彦)、副院長(友澤尚文)、医局(稲見康司、佐藤晃)、看護師(西村百合枝、高橋美保、泉敦子、山根千春)、総務課(楠本英行、山内正)、医事課(橋本直子)、薬剤部(大成政揮)、放射線科(正岡憲治)、検査科(阿南孝志)、リハ科(小川進太郎)、栄養管理室(清水亮)